Vol. 812

富山経協

アーティチョーク（解説・6ページ）

CONTENTS

2　第69回定時総会（報告）
4　定時総会　講演会・座談会（講演要旨）
7　新会員紹介
8　TOP INTERVIEW
　東邦工業　斉藤大助社長
10　調査報告
　2014年春季賃金改定状況調査＜最終集計＞
12　Keikyo行事レポート
13　参加者NOTES
18　会員の動き
19　景況指標
18、20　おしらせ・事業予定

2014 6

第69回 定時総会

一般社団法人富山県経営者協会の第69回定時総会は５月26日（月）15時半から、富山国際会議場２階会議室で、376社（出席141社、委任状31社、議決権行使204社）により開催した。

定刻に至り、開会宣言をし、本定時総会が定足に達しており成立している旨を告げ、稲垣代表理事の挨拶の後、定款第15条により稲垣代表理事が議長となり、第１号～６号の議案について審議・報告しいずれも異議なく満場一致で承認された。開会に先立ち稲垣会長より、昨年総会以降の叙勲者３名が紹介された。

議 事

第１号議案

2013年度事業報告の件

定時総会は、５月16日開催し、総会後「ＹＫＫの経営理念、善の循環から得られる示唆」をテーマに講演会、座談会、懇親会を行った。理事会は４回開催した。事業推進機関会議は、会長・副会長会議を２回、幹事会を３月に開催した。会員懇談会は、７月西部地区、９月富山地区、11月東部地区で開催した。新春互礼会は経済４団体合同で１月６日開催した。広報・調査活動は、機関紙が６回、講演録は４回発行した。定期調査は７回、経営課題調査は２回実施した。以上の活動により、会員数は441社、事業への参加者は5,641名となった。

第２号議案

2013年度財務諸表承認の件

・正味財産増減計算書

一般正味財産増減の部

経常収益計	97,140,335円
経常費用計	104,062,225円
経常増減額	△6,921,890円

経常外増減の部

経常外収益	0円
経常外費用	0円

経常外増減額　0円
一般正味財産増減額
△6,921,890円
正味財産期末残高
154,415,635円

・貸借対照表

資産の部
流動資産　111,398,020円
固定資産　55,103,894円
資産合計　166,501,914円
負債の部
流動負債　7,273,619円
固定負債　4,812,660円
負債合計　12,086,279円

資産合計から負債合計を引いた正味財産合計は154,415,635円となった。

第３号議案

公益目的支出計画実績報告の件

19年で公益目的財産額の確定額171,314,841円をゼロ円とする公益目的支出計画に基づき、今年度支出計画額10,219,000円に対して実績は12,485,000円となった。

第２号議案に関し、監事の齊藤栄吉氏（富山銀行取締役頭取）から「その内容は正確かつ妥当」との監査報告が行われた。

第４号議案

2014年度事業（案）審議の件

（基本方針）

財務省が発表した２月貿易統計速報によると、貿易収支は２兆7,900億円の赤字となり1979年の統計開始以来最大の赤字となった、また消費税が４月より引き上げられたことは消費動向や企業業績に変化が生じるのではないかとの懸念があるが、5.5兆円の経済対策が講じられており、昨年度から続いている企業業績の改善による経済の好循環が実現すれば、消費税率引き上げの影響も抑えられデフレからの脱却も見えてきている。

政府には、高いレベルでの経済連携協定の実現、大胆な規制・制度の断行をはじめとする日本の競争力の強化と需要の喚起につながる諸制度を早期実現し、力強い経済成長を軌道に乗せ、さらに早い時点での経営収支の黒字化が日本再生に重要である。

一方、経営者はリーダーシップを発揮して明確なビジョンのもと、企業業績の改善を進めることにより、設備投資や雇用の拡大、処遇改善につなげていかなければならない。そうした日々の努力に裏付けられた企業の存続・発展が社会に付加価値として還元され、地域の安定につながる。

一般社団法人富山県経営者協会は、富山県という地域社会と、経済界を担う経営者という観点に立ち、地域の業種や規模を問わない経営者の集う「経済団体」としてのあるべき姿を常に見直し、行動し、結果を出すことにより、その役割を果たしていく。

具体的には、多様化する会員ニーズに対応した経営課題の研究、企業活動の源である社員への研修等の教育提供、労使関係の充実を目指した人事制度などの提案、会員同士の情報交換と人脈づくりの場の提供などより、会員企業の更なる繁栄につなげていく。また、地域社会における民間の経済団体の代表格である位置づけの責任を果たすため、行政の雇用安定や地域振興の取り組みへの支援を行い、他経済団体との連携を深めて、地域社会の発展に努める。

以上の実現を目指し2014年度の事業活動を以下のとおり行なう。

１．企業の存続なくして雇用はありえない。先の見えない企業環境において参考となる他社の取り組み・仕掛け、行政の雇用や人材育成、海外展開等の支援制度の情報提供活動を進めていく。

２．企業の繁栄の源泉は究極的には人材力である。会員企業各社の実情に適合し、そこで働く人がより働きがいを感じ、自ら能力を向上する人事処遇・教育制度の実現に向けての支援を強化する。

３．単独の活動には限界がある。行政並びに他の経済団体との連携を通して、当協会の各種事業の強化と充実を図っていくとともに、協会の枠を超えた人脈作りにつなげていく。

４．公益性を高める活動を強化する。研究成果やアンケート結果などをマスコミやホームページで情報提供し地域社会の発展につなげる。そのために会員増強と会員相互協力の場である各委員会活動への責任者の参画を促進する。

第５号議案

2014年度収支予算(案)審議の件

・損益予算書

一般正味財産増減の部
経常収益計　101,694,100円
経常費用計　106,417,000円
経常増減額計　△4,722,900円
経常外増減の部
経常外収益計　0円
経常外費用計　330,000円
経常外増減額計　△330,000円
一般正味財産増減額
△5,052,900円

以上２議案について異議なく満場一致で承認された。

第６号議案

理事選任の件

理事候補者
・山下　清胤
三協立山㈱代表取締役社長

以上異議なく満場一致で承認された。

第69回 定時総会 講演会・座談会

総会終了後、富山国際会議場３階メインホールで、明治大学経営学部教授 坂本恒夫氏を講師に招いて講演会を開催。続く座談会は、石井隆一 富山県知事、山浦愛幸 長野県経営者協会会長、町野利道 富山県経営者協会副会長と、講師の坂本教授が登壇し、コーディネーターを当協会の稲垣晴彦会長が務めた。

講演会（要旨）

「北陸新幹線開業を機に産業界はどう動くか」

講師　坂本　恒夫 氏（明治大学経営学部教授・経営学博士）

2015年春には、いよいよ富山に北陸新幹線が開業します。東京と富山は２時間10分で結ばれ、速達型の車両の名前が「かがやき」ということで、まさに富山はこれから輝いていくという時代と思っています。そこで私から３つの提案をしたいと思います。

第一の提案は、「社会的価値の発信」をぜひして頂きたいということです。

つまり、ＣＳＲ（社会的責任）ということではなく、これからは経営目標の中に、「企業の経済的価値（儲け）」を追求していきながら、「地球、社会、自然環境への貢献」といった「社会的価値の追求」をしなければならない。ビジネス価値と社会的価値の両方を追求する「共通価値経営」を実践することにより、これまで以上に富山の魅力をグローバルに発信できると思います。

二番目の提案は、「富山型の新しい経営効率化」のモデルを作り発信して頂きたいということです。

経営は絶対に効率化を忘れてはいけません。新幹線が来る来年の春以降は、どういう形で経営の効率化を進めていくのかということは、富山にとって大変大きな課題です。私は企業連携によるコスト削減だと思います。富山や北陸、あるいは近いところだけではなく、世界中に企業連携のネットワークを作って頂きたい。場合によっては地域連携も考えて、このコスト削減を図って頂く。こういうことが非常に大事だと思います。新幹線が開業し、事業連携・企業連携・地域連携が進むなかで、新たな事業化、産業化という拡大路線ばかりではなく、内部の経営効率化、コスト削減に新幹線の開業を生かして頂き、富山発の経営効率化を世界に発信していただきたいと思います。

三番目の提案は、「東京を経由しアジアまで出て行こう」ということです。

富山まで新幹線が来て、ビジネスをはじめ北陸の色々なものがこれから首都圏に向かっていく、首都圏にポイントを置いて色々な計画や事業が展開されようとしています。私の提案はもう一歩進み、視線は首都圏からアジアにまで広げてい頂きたいと思っています。現在、大企業よりもむしろ中小企業の方がアジアにどんどん進出しています。それも比較的資本規模の小さい企業が積極的にアジアに展開しています。

これからはもちろん首都圏もひとつの大きなマーケット、ターゲットではありますが、さらにもう一歩踏み出して、アジアに出ていくことへ視野を持って行って頂きたいと考えます。アジアの成長を富山に取り込む、これは富山の企業の命題ではないでしょうか。日本から多くの中小企業がアジアに進出している現状を考えれば、富山の企業が現在の状況に甘んじていることはないと考えます。

座談会（要旨）

石井知事　新幹線の開業効果を最大限に高めるために、「新幹線戦略とやま県民会議」を立ち上げ、観光と産業活性化のプロジェクトチームをつくり、また、新川・富山・県西部と３つの地域会議を組織して進めています。平成26年度の県予算は、新幹線開業特別枠を設け、昨年倍の20億円を組んでいます。ソフト経費が中心です。地域資源の魅力アップ、富山の自然の魅力をもっと引き出して観光価値を上げる。産業振興の面でも、ビジネスの拠点化を進める、企業誘致に改めて力を入れています。富山県のものづくりは、自動車関連、電気電子、住宅ビル、製剤・ジェネリックなど、多方面でそれなりの力がありますが、さらに強みを横に広げて八ヶ岳方式で県の産業を重構造にして分厚いものにしていきたいと思っております。長野県さんとの共同連携は、今年は９月に物産と観光展を新宿の京王百貨店で予定しています。商談会についても、11月頃に富山・長野連携して首都圏で行い、両県の企業の海外販路開拓を進めます。

山浦会長　本音のところを申し上げたいと思います。長野県の場合は当時オリンピックに向けて沸いていて、新幹線に対して何をしようというような発想はなかった。オリンピックが終了した直後から、日本全体が不良債権整理のような状況になってきて、長野県も必ずしもその後うまくいったという訳ではありません。新幹線が逆効果という話になってしまいそうで大変恐縮ですが、我々がきちんとした新幹線対策、長期ビジョンを持たず、オリンピックに目が奪われてしまった。しかし、その中でも、軽井沢の土地の社会的価値は新幹線によってすごく上がりました。田んぼの中にできた駅で栄えた所は一つもないと言われていますが、佐久平は商業施設の集積ができました。明暗が分かれる結果になっているのではないでしょうか。

町野副会長　新幹線が通ることにより産業活性化と、観光は確かに大きく変わるだろうなと思っています。お土産や食品、６次産業、農業、水産、そういう分野の新しい商品開発をここ２年間で進めてきました。長野さんの方にも２回、お伺いして交流会をさせて頂きました。長野県とのお付き合いが相当深くなるのではないかと思います。

坂本教授　石井知事から大変素晴らしい、精緻な施策が示されまして、心強い感じが致しました。山浦会長から長野県との連携が言われ、今程の町野副会長のお話と一緒にしますと、長野とこの富山が大変近くなるということで、私も地域連携が大切だという話を致したのですが、まさにこれから長野と富山が連携をして、そして盛り上げていくというような時代がやってくるのではないかと思います。

懇親会

総会、講演会ののち、懇親会はＡＮＡクラウンプラザホテル富山・鳳の間にて開催した。

開会に先立ち、稲垣会長から新会員の㈱カターレ富山、北日本物産㈱、㈱富山サンダーバーズベースボールクラブ、㈱ヌノムラ、㈱FASSE、学校法人富山大原学園、エムアールテクノサービス㈱、㈱新日本コンサルタント、高岡ケーブルネットワーク㈱、㈱富士薬品生産事業本部、㈱マツモト、鷹栖建工㈱の各社が紹介された。

稲垣会長挨拶

石井知事祝辞

武内副会長乾杯

山下副会長中締め

石井知事の祝辞の後、武内副会長による乾杯の発声でスタートし、山下新副会長の中締めで終了した。

新副会長ご挨拶

三協立山株式会社
代表取締役社長　山下　清胤

このたび図らずも当協会の副会長に選任いただき誠に光栄に存じますと共に、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

過去には委員会にて当協会の活動に参画させていただく機会がございましたが、今後は副会長として会員企業の皆様のお役に立てるよう精一杯努めさせていただきます。

さて、日本経済は2012年に発足した安倍政権の経済政策いわゆるアベノミクス効果による円安や株価の回復、今年４月の消費増税前の駆け込み需要などが追い風となり好決算の企業が相次いでおります。また昨年は2020年の東京オリンピック開催が決定し、多方面に経済効果が期待されるなど、経済は回復から次のステージに移ってきたように感じられます。

この富山県におきましても、2015年春に北陸新幹線の開通が予定され首都圏との時間的距離が大幅に縮まるなど経済的にも大きな転機を迎えます。富山県の地域経済また企業にとりましても大きな期待が寄せられるところでございますし、この機会を有効に活用していかなくてはとの想いを強くしております。

皆様のご指導・ご協力をお願い申し上げると共に微力ながら稲垣会長の補佐及び会員企業各位のお役に立てるよう取り組んでまいります。よろしくお願い申し上げます。

1954年生まれ。1977年京都大学工学部を卒業後、三協アルミニウム工業㈱入社。人事部長、三協・立山ホールディングス㈱経営管理部長兼経営企画部長などを歴任し、2011年取締役、2012年三協立山㈱取締役執行役員・三協マテリアル社社長、2013年８月から三協立山㈱社長。

表紙の花
アーティチョーク

アーティチョークと植物画家二口善雄氏

中央植物園には、植物画家として著名な二口善雄画伯（1900－1997）から寄贈された作品1,800点余りが収蔵されており、この中にアーティチョークの作品が８点含まれています。毎年７月中旬に、植物園の雲南温室の前でアーティチョークが大きな花を咲かせますが、この植物は二口先生のご自宅から分けていただいた株、つまり植物画のモデルとなった特別な株なのです。

故二口善雄画伯(95歳)と作品

アーティチョークは別名をチョウセンアザミといいますが、朝鮮半島ではなく地中海地方が原産のキク科の植物で、高さ１～２ｍほどになる壮大な多年草です。

蕾を食材として利用

アザミのような花（頭状花）の直径は10㎝にもなり、フランスやイタリアでは、昔からこの蕾（正確には若い花序）を食材としています。写真は観賞用のアーティチョークなので食べる部分がほとんどありませんが、食用の品種は蕾が丸く肉厚になっていて、丸ごと塩茹でし、鱗状の苞（ほう）を外側から剥がして歯でしごいて食べ、芯の部分も切って食べるのだそうです。最近では高級食材としてデパートやインターネット通販でも入手できるようなので、一度どんな味なのか試してみたいと思っています。

（富山県中央植物園　中田政司）

新会員の紹介

（50音順）

■ 社会福祉法人 海望福祉会

所 在 地　魚津市仏田3468番地
代 表 者　理事･総合施設長　大﨑　雅子
設　　立　2001年（平成13年）8月24日
資 本 金　—
従 業 員　160名
事業内容　高齢者・障害者の介護施設運営

■ 福野シティ開発株式会社

所 在 地　南砺市やかた324番地
代 表 者　代表取締役　　川合　八郎
設　　立　2004年（平成16年）3月3日
資 本 金　2,500万円
従 業 員　2名
事業内容　地域活性化の企画・開発

■ 三笑楽酒造株式会社

所 在 地　南砺市上梨678番地
代 表 者　代表取締役　　山﨑　　洋
設　　立　1880年（明治13年）
資 本 金　1,000万円
従 業 員　3名
事業内容　清酒製造

■ 株式会社富士薬品 生産事業本部

所 在 地　富山市婦中町板倉682番地
代 表 者　取締役生産事業本部長　中川　正之
設　　立　1954年（昭和29年）4月
資 本 金　314,559,500円
従 業 員　350名（富山県内）
事業内容　自社製品開発及び製造業務、開発及び製造の受託業務

■ 株式会社新日本コンサルタント

所 在 地　富山市吉作910番地の1
代 表 者　代表取締役社長　市森　友明
設　　立　1979年（昭和54年）4月
資 本 金　6,000万円
従 業 員　91名
事業内容　総合建設コンサルタント、補償コンサルタント、測量調査業

■ 株式会社マツモト

所 在 地　富山市才覚寺211－2
代 表 者　代表取締役　　松本　由次
設　　立　1984年（昭和59年）4月
資 本 金　1,000万円
従 業 員　45名
事業内容　寝具リース、リネンサプライ

■ 高岡ケーブルネットワーク株式会社

所 在 地　高岡市昭和町一丁目2番10号
代 表 者　代表取締役社長　石丸　昌之
設　　立　1989年（平成元年）6月16日
資 本 金　10億4,000万円
従 業 員　37名
事業内容　テレビ・インターネット事業

■ 医療法人財団博仁会 横田病院

所 在 地　富山市中野新町1丁目1番11号
代 表 者　理事長　　横田　龍大
設　　立　1965年（昭和40年）10月
資 本 金　3,000万円
従 業 員　約100名
事業内容　内科、腎臓内科（人工透析）、外科

■ 鷹栖建工株式会社

所 在 地　砺波市鷹栖536番地
代 表 者　代表取締役社長　石﨑　元蔵
設　　立　1963年（昭和38年）9月16日
資 本 金　5,000万円
従 業 員　38名
事業内容　注文住宅の設計施工、一般建築物の設計施工管理、不動産仲介

春の叙勲

旭日小綬章

学校法人 高岡第一学園 学園長・元理事長

川原　隆平　氏

目指すは世界1
空洞化はねのける体質強化

東邦工業株式会社
代表取締役社長
斉藤　大助 氏

国内有数の玉軸受用保持器（リテーナ）のメーカーです。

1948年に祖父が生活用品向けの金属プレス加工業を興し、すぐに不二越さんとの取引が始まって以来、軸受（ベアリング）部品を製造しています。1964年には日本精工さんとも取引を開始。1967年に自動車部品製造を伸和工業㈱として設立し、現在、弟がその社長を務めています。

祖父の言葉「一番になれ」が社是ですが、その時代からかなりの競争環境にあり、勝ち残ってきた国内主要数社の１つです。

ー東欧とインドに拠点ー

ポーランドとインドにいち早く製造拠点を置かれました。

1990年代後半から軸受部品メーカーの第２次海外進出ブームが起きました。その頃、私は軸受メーカーでの修業を終えて帰ってきたところで、中国とインドとヨーロッパを視察して回りました。その中で、民主化したポーランドは日系企業の進出が始まっており、また現地の国営企業を買収した日本精工さんからお声がけを頂いたこともあり、2002年に㈲東邦ポーランドを設立しました。卒業し立ての若者を採用して教育し、今では経営を支えてくれています。

インドは、私が入社した1996年に現地企業と技術提携しました。30年程前に当社で研修を受けた方がインドに帰国し、その後会社を立ち上げることになって当社に教えを請われたことがきっかけです。同社とは2006年に合弁企業を立ち上げました。

違う国の方を率いていく難しさは。

宗教やバックグラウンドは基本的に関係ないと思っています。人は人。一緒にやろうと、どれだけ真面目に対応してあげるかです。海外進出は父から「何も言わないから一人でやれ」と任されたことと、立ち上げから若い現地スタッフと仲間のようにやってこられたことが良かったのかなと思います。ポーランドはまだ社会主義体質が残っていて国との折衝は面倒でしたが、前向きな苦労なので楽しかったです。カソリック系が多い国なので、従業員は勤勉です。

どのような供給体制ですか。

自動車メーカーが世界各地に製造拠点を構え、軸受メーカーもグローバル展開しています。需要地生産に対応するため、ヨーロッパ圏はポーランド工場から、インドはインドの合弁会社。北南米と東南アジアは日本から輸出しています。滑川の中小企業ですが、世界19カ国に納めています。

インドの合弁を立ち上げた頃は、材料の鉄が世界的に不足し、

比較的入手しやすかったインドで半製品を作ってポーランドへ入れました。現在、ポーランド工場の技術が日本並みに成長し、鉄不足も解消してきたので、インドの合弁会社を2012年に一旦解消し、新たに日本の樹脂メーカーと３社で樹脂製リテーナ製造の合弁会社を立ち上げています。

市場環境は？

軸受は、歯医者さんのドリルから、洗濯機、自動車、さらにはミサイルまで、色々なものに使われていて、右肩上がりで伸びていくのは確実です。ただ、10数年前から海外が新たな市場になってきて、再び厳しい競争にさらされています。軸受市場は中国を除いて寡占化が進み、その部品も寡占化され、インドの競合相手の世界展開や、中国メジャーの海外進出を前に、それらをどう押さえに行くかを考えているところです。

ー寡占化市場を攻めるー

日本で培われた技術力と、コスト削減の力が武器になるのでは。

もちろん我々の技術力も生産性も高いのですが、新興国の技術も追い上げてきています。海外の安い人件費に対抗できるコスト構造にしなければいけません。海外のコンペティターが日本に入ってこないように、日本のものづくりの強みを磨いて、生産性をさらに上げるしかありません。

逆に海外では、既存のお客様を取りこぼさないことと、現代の軸受を発明したスウェーデンのＳＫＦさんとも２年前から取引をさせて頂いていますが、そのような新規顧客を増やして行くことです。

生産性を上げるために、どのような取り組みをされているのですか。

中期計画を経営の柱にしています。鉄不足の時期に収益が悪化したため着手しました。３年後のビジョンを作り、それをみんなで共有し、達成するための予算を組み、年度ごとの方針に落とし込んで、各部署で実践し改善しています。

現在第３次のビジョンは「東邦グループ技術力による国内空洞化をはねのける体質強化と、グローバル競争を勝ち抜ける成長戦略の実現。世界一を目指しましょう」です。体質強化とは、海外のコンペティターの製品が入ってきたときに、打ち勝てる体質。生産性を上げ、材料歩留まりの向上、例えば我々の製品は四角い板から丸を抜くので、この丸をムダなく取ることが利益の根源なので、その材料歩留まりを向上させます。

売上げの目標は。

現在、日本とポーランドの生産量は同じくらいですが、売上高は日本が倍。今後、日本国内は伸びないので20億円弱に減収傾向。逆に海外は新規を取り込んで30％増を見込んでいます。

６年前のリーマンショックはかなりの打撃があったのでは。

中期計画第１次の３年目に遭遇し、すぐに２次へ切り替えました。今思えば、60年を超える会社で仕事は当然あるものだとダレてきていたところに危機が訪れ、みんな気を引き締め直して中期計画の目標を達成してくれました。スタッフ全員の意識改革になって体質強化につながったということで、ありがたかったです。

今後の世界展開は。

ヨーロッパとインドは押さえているので、今後は東南アジア（タイ、インドネシア）と北南米をどう押さえるか。ヨーロッパが軌道に乗ったので、コスト面で勝てれば、大西洋経由で北南米地域が商圏に見えてきます。

タイに自動車製造が集積する中、競合企業がインドネシアとフィリピンに進出しているので、東南アジアの商圏をどう攻めるか検討しているところです。寡占化する市場で台頭してくる新興国のコンペティターと戦いながら、世界を網羅できるよう生き残りをかけて挑みます。

略　歴

1966（昭和41）年８月生まれ。滑川市出身。立命館大経済学部卒後、米国・東ミシガン州立大で経営管理学修士を修了し、1993年日本精工㈱入社。1996年東邦工業㈱へ入社し、総務・工場財務・海外案件を担当、2003年10月から代表取締役社長。

会社概要

東邦工業株式会社

創　　業：1948（昭和 23）年
所 在 地：滑川市下梅沢 526番地
資 本 金：3,000万円
事業内容：玉軸受部品、自動車部品製造
従業員数：125名（2014年４月現在）
売 上 高：37億円（2014年３月期、グループ全体）
関連会社：伸和工業㈱、㈲東邦ポーランド、ＴＭＫＩマシンパーツ
ＵＲＬ：http://www.tohogp.co.jp/

調査報告

2014年春季賃金改定状況調査

1. 富山経協調べ

県内企業の賃金改定状況〈最終集計〉

113社加重平均3,855円、改定率1.45%

当協会は、「2014年春季賃金改定状況調査（加重平均）」の最終集計を取りまとめた。**（表1）**

県内企業114社から寄せられた回答のうち集計可能な113社の改定額平均は3,855円、改定率1.45%で、昨年の最終集計結果（2,867円、1.10%）と比べると、改定額は988円増加、改定率は0.35%増加した。

業種別にみると、製造業63社の改定額平均は4,307円、改定率は1.58%で、昨年（3,176円、1.19%）と比べると、改定額は1,131円増加、改定率は0.39%増加した。非製造業50社の改定額平均は3,199円、改定率は1.25%で、昨年（2,652円、1.04%）と比べると、改定額は547円増加、改定率は0.21%増加した。

改定額の分布では、「6,500円以上」が22社で最も多く、次いで「3,000円以上3,500円未満」が18社、「2,000円以上2,500円未満」が12社であった。**（図表2）**

改定率の分布では、「2.4%以上」が25社で最も多く、次いで「1.4%以上1.6%未満」が14社、「2.0%以上2.2%未満」が13社であった。**（図表3）**

改定の実施内容では、「定期昇給とベースアップを実施した」企業が41社で最も多く、次いで「定期昇給のみ実施した」企業が36社、「定昇制度はないが昇給を実施した」企業が20社となっている。

賃金を改定するに当たり最も重視した要素では、「企業業績」を挙げる企業が62社で最も多く、次いで「世間相場」が18社、「労使関係の安定」が9社となっている。

（表1）2014年 春季賃金改定状況調査結果（加重平均）

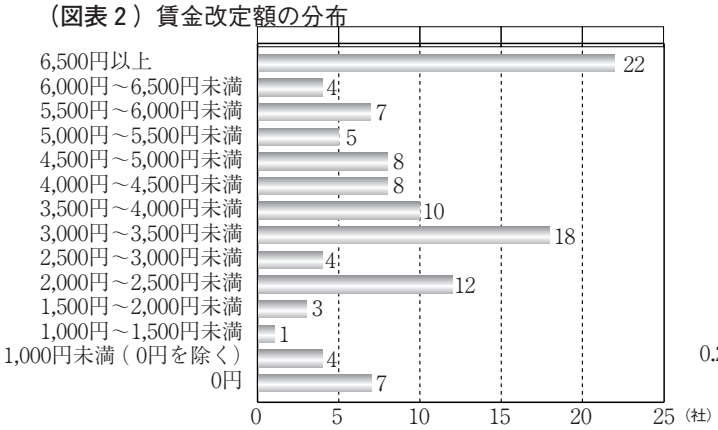
〔最終集計ー2014年6月9日〕　（一社）富山県経営者協会

業種		2014年 社数(社)	2014年 改定額(円)	2014年 改定率(%)	2013年 社数(社)	2013年 改定額(円)	2013年 改定率(%)
製造業	繊維	3	6,111	2.04	3	5,274	1.80
	パルプ・紙・紙加工品	2	1,887	0.91	3	2,384	1.09
	印刷・同関連	2	2,846	1.33	2	1,997	0.91
	化学・薬品	10	5,139	1.75	8	3,816	1.32
	プラスチック製品	7	3,292	1.38	5	3,325	1.45
	窯業・土石	0	—	—	0	—	—
	鉄鋼・非鉄金属	3	4,739	1.11	4	3,647	1.10
	金属製品	11	3,083	1.14	5	1,306	0.55
	一般機械器具	13	5,518	2.29	15	3,681	1.47
	電気機械・電子部品	3	3,641	1.60	4	2,959	1.12
	輸送用機械器具	4	4,815	1.87	2	2,034	0.78
	その他製造業	5	3,489	1.57	5	3,479	1.49
製造業平均		63	4,307 (4,120)	1.58 (1.69)	56	3,176 (3,234)	1.19 (1.27)
非製造業	建設業	9	6,523	2.69	9	4,374	1.81
	電気・ガス	3	2,454	0.87	3	2,465	0.88
	情報サービス・通信	6	4,036	1.45	7	3,992	1.48
	運輸・倉庫	11	2,182	0.90	9	1,987	0.81
	卸・小売業	14	3,927	1.61	12	3,053	1.48
	金融・保険	0	—	—	2	0	0.00
	サービス業・その他	7	3,124	1.24	6	3,112	1.20
非製造業平均		50	3,199 (4,676)	1.25 (1.91)	48	2,652 (3,121)	1.04 (1.24)
全業種平均		113	3,855 (4,366)	1.45 (1.79)	104	2,867 (3,182)	1.10 (1.26)

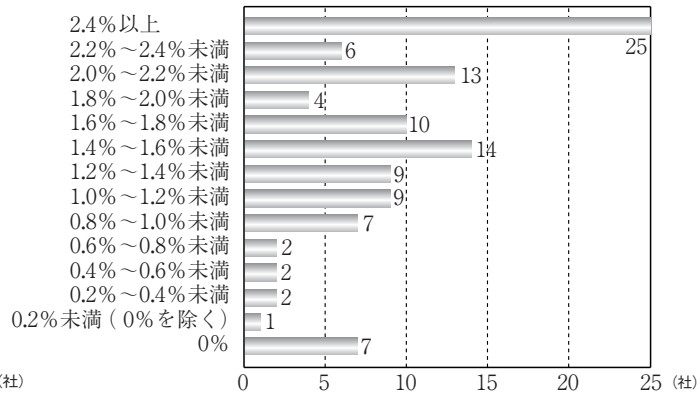
（注）① 改定額には、定期昇給等を含む。
② 平均欄の上段は加重平均、下段の（ ）内は単純平均である。

〈最終集計〉

（図表２）賃金改定額の分布



（図表３）改定率の分布



2. 日本経団連調べ

全国の中小企業の賃金改定状況〈第１回集計〉

223社加重平均4,438円、改定率1.80%

日本経済団体連合会は５月29日、「2014年春季労使交渉・中小企業業種別回答(加重平均)」の第１回集計を発表した。**（表4）**

調査対象（従業員数500人未満の全国の中小企業17業種741社）のうち、230社（31.0%）で回答が出ており、このうち集計可能な223社の総平均額は4,438円、改定率1.80%で、昨年の第１回集計結果（4,141円、1.64%）と比べると、金額で297円、率で0.16%増加した。

業種別にみると、製造業163社の平均は4,791円、改定率1.89%で、昨年の第１回集計（4,572円、1.75%）よりも金額で219円、率で0.14%増加、非製造業60社の平均も3,464円、改定率1.51%で、昨年（2,484円、1.12%）より金額で980円、率で0.39%増加している。

なお、最終集計の公表は7月末頃を予定している。

（表4）2014年春季労使交渉・中小企業業種別回答一覧 [了承・妥結含]（加重平均）

〔第１回集計ー2014年5月29日〕　（一社）日本経済団体連合会

業種		2014年 社数(社)	2014年 回答額(円)	2014年 増減率(%)	2013年 社数(社)	2013年 回答額(円)	2013年 増減率(%)
製造業	鉄鋼・非鉄金属	7	5,687	2.18	7	4,655	1.82
	機械金属	54	4,730	1.90	46	4,625	1.73
	電気機器	17	4,575	1.88	14	4,063	1.66
	輸送用機器	6	4,251	1.77	4	4,271	1.71
	化学	23	5,028	1.87	21	5,827	2.14
	紙・パルプ	5	3,734	1.59	4	3,605	1.54
	窯業	9	3,446	1.32	3	4,087	1.61
	繊維	15	3,392	1.54	14	3,495	1.52
	印刷・出版	6	6,518	2.33	2	4,419	1.54
	食品	9	4,853	1.86	9	3,708	1.48
	その他製造業	12	5,632	2.07	9	4,435	1.64
製造業平均		163	4,791 (4,495)	1.89 (1.79)	133	4,572 (4,408)	1.75 (1.73)
非製造業	商業	15	4,471	1.85	6	2,095	0.94
	運輸・通信	28	2,271	1.10	19	1,884	0.92
	土木・建設	4	4,678	1.92	5	3,926	1.66
	ガス・電気	4	3,974	1.31	5	3,886	1.32
	その他非製造業	9	4,800	2.01	4	3,147	1.54
非製造業平均		60	3,464 (3,385)	1.51 (1.48)	39	2,484 (2,634)	1.12 (1.22)
総平均		223	4,438 (4,196)	1.80 (1.71)	172	4,141 (4,005)	1.64 (1.63)

（注）① 調査対象は、原則として従業員数500人未満、17業種741社
② 16業種230社（31.0%）で回答が出ているが、このうち7社は平均金額不明等のため、集計より除外
③ 上記回答・妥結額は、定期昇給（賃金体系維持分）等を含む
④ 製造業平均、非製造業平均、総平均欄の（ ）内の数値は、単純平均
⑤ 2013年の数値は、2013年5月10日付第1回集計結果

2014年 4月13日～6月9日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加者数
会議	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	4月22日（火）	富山経協・研修室Ｂ	8名
会議	理事会		4月24日（木）	富山経協・研修室Ａ	7名
会議	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	5月14日（水）	富山経協・研修室Ａ	21名
会議	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	5月20日（火）	富山経協・研修室Ａ	15名
会議	ＩＴ・インフラ委員会「定例委員会」	ＩＴ・インフラ	5月22日（木）	日本海ガス㈱岩瀬工場	11名
会議	「定時総会」「講演会・座談会・懇親会」		5月26日（月）	富山国際会議場、 ＡＮＡクラウンプラザホテル富山	172名 350名
会議	教育委員会「定例委員会」	教育	5月27日（火）	富山経協・研修室Ａ	20名
会議	環境委員会「情報交換会」	環境	5月29日（木）	富山商工会議所ビル	31名
会議	環境委員会「定例委員会」	環境	5月29日（木）	富山経協・研修室Ａ	18名
会議	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	6月 9日（月）	富山経協・研修室Ａ	15名
講座・セミナー	品質管理入門講座＜基礎編＞	品質管理	4月17日（木）・22日（火） 5月 8日（木）・15日（木）	富山経協・研修室Ａ	32名
講座・セミナー	管理職マネジメント研修	教育	4月17日（木） 5月16日（金）～17日（土）	富山県農業総合研修所	28名
講座・セミナー	営業力基礎セミナー	教育	4月22日（火）・23日（水）	富山商工会議所ビル	33名
講座・セミナー	開発現場で役立つ品質工学活用講座	品質管理	4月24日（木）・25日（金）	富山経協・研修室Ａ	20名
講座・セミナー	ビジネス・マナー習得セミナー	教育	5月23日（金）	富山商工会議所ビル	30名
講座・セミナー	第１回人事・労務管理セミナー	人事・労務政策	5月28日（水）	富山経協・研修室Ａ	18名
講座・セミナー	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	5月30日（金）・6月6日（金）	富山経協・研修室Ａ	30名
講座・セミナー	中堅社員活性化コース	教育	6月 4日（水）・5日（木）	富山商工会議所ビル	45名

総務交流委員会

■定例委員会

６月９日（月）、武内委員長はじめ15名が出席し、富山経協・研修室Ａで開催した。

武内委員長の開会の挨拶の後、事務局より2014年度事業の実施状況（新入社員意識調査の結果及び賃金改定状況調査の最終集計結果、第１回婚活イベントの開催結果等）について報告があった。

次に、2014年度の事業予定について事務局から説明ののち協議を行い、①第２回婚活イベントを

「オータムナイトパーティ」の名称で10月25日（土）に開催すること、②企業見学研修会は昨年度までの県外から今年度は県内で検討を進めること、③経営課題調査を外国人労働者の受入等に関して行うこと、次回の定例委員会を８月20日に開催すること等を決めた。

最後に須垣副委員長が閉会の挨拶をして、終了した。

人事・労務政策委員会

■幹事会

４月22日（火）、綿貫委員長・副委員長・幹事６名が出席して、富山経協・会議室Ｂで開催した。

今年度の委員会の具体的事業活動内容について審議した。①第１回定例委員会は５月20日開催。②今年度（第２回目）の労務管理実務基礎講座は委員企業より参加を募る。③５月28日の人事・労務管理セミナー（第１回）では、はじめて「ダイバーシティ」をテーマに取り上げ、講師も日本生産性本部から女性講師を招聘。最後に５月26日第69回定時総会後の講演会・座談会への委員の参加をお願いし閉会した。

■定例委員会

５月20日（火）、綿貫委員長はじめ15名が出席して富山経協・研修室Ａで開催した。

はじめに「中高齢者の労働移動について」と題して、公益財団法人産業雇用安定センター富山事務所所長　松山敏満氏より以下の通り講演があった。①概要：労働力が過剰となっている企業や不足している企業等を対象に、人材の受入れ、送出し情報を収集・提供し、出向・移籍のあっせんを行う。②運営状況：移籍は横ばいで、出向件数が増加している。平成24、25年度の年齢別成立状況では50歳以上が約１／３を占める。ホワイトカラーの方々が同一職種で成立する確率は、ブルーカラーの方々に比べて低い。③労働移動状況について：年度別成立件数では、最近は出向が多くなってきている。県外送出者の受入れや、県外への送出など、他県にまたがる動きが見られるようになってきた。④中高齢者の労働移動について：中高齢者激増時代の組織改革では、中高年齢者の能力をフル発揮・フル活用するには、ジェネラリストからスペシャリスト中心型へ組織編制を切り替えていく必要がある。

次に「県内介護事業の現状について」と題し、社会福祉法人秀愛会理事長　澤田和秀氏より以下の通り講演があった。①高齢者を取り巻く状況：高齢者の人口は年々増加しており、平成22年では、総人口の約１／４、32年には約１／３が高齢者になることが推計されている。要介護認定者数及び認定率は年々増加しており、平成23年３月では49,163人・17.3％（全国平均16.9％）である。また、要介護認定者の87.4％が75歳以上となる。②介護保険制度の概要：介護保険は３年ごとに、事業計画に定めるサービス費用見込額に基づき、３年間を通じて財政の均等を保つように設定さている。介護サービスの９割分は保険給付され、要介

参加者ＮＯＴＥＳ

人事・労務政策委員会

「ダイバーシティマネジメントセミナー」を受講して

ＹＫＫ株式会社
総務部　黒部業務グループ　　佐伯　弘美

私は今春より弊社のダイバーシティ推進担当として任命され、まずはダイバーシティの必要性を理解するために受講致しました。

受講前は、性別、年齢、国籍、障害、性格や価値観といった多様性を取り入れながら人生を生かしていく、その目的が私自身ぼんやりとしていて、結果何をすればいいのかよく分かりませんでした。

講義を受けて分かったことは、今企業にはグローバル市場における競争力強化と労働力人口の減少対策として新しい価値の創造とニーズの多様化に対応できる人材・活用が必要だということです。その一つとして「女性の活躍推進」において、それぞれ（経営者、管理職、個人：男性・女性）の立場での意識改革が不可欠であり、組織の中で社員一人ひとりが持てる力を十分に発揮できる環境づくりが求められていると理解できました。

加えて参加された各社、「女性の活躍推進」に対する悩みや取組みは真剣なもので、他社の動向を知ることができ大変有意義なディスカッションでした。今後は段階的な意識改善を積み重ねながら、より働きがいのある職場となるよう尽力していきたいと思います。

護者は、原則として残りの費用の１割のほか、施設サービスを利用した場合の食費及び居住費を負担する。介護保険の総費用は、年々増加している。75歳以上高齢者の全人口に占める割合は増加していき、2055年には25%を超える見込み。認知症高齢者が増加し、単独世帯や夫婦のみの世帯が増加していく。とした上で、①介護保険料の高額化（支払の限界）。②家庭での介護や老々介護のあり方。③介護休暇取得従業員の増加による人員確保の問題顕在化。④介護施設の人件費のウエイト増による本来サービスの低下。⑤中小規模事業者の設備投資（例：入浴介助機器類）が進んでいない。国による一層の法整備と、民間企業の介護事業への参入促進が望まれる。

■人事・労務管理セミナー（第1回）

５月28日（水）、「ダイバーシティマネジメント～女性管理職が育つ、変化に対応する活力ある企業～」をテーマに、18名が参加して富山経協・研修室Ａで開催した。

講師の公益財団法人日本生産性本部経営コンサルタント　幸田千栄子氏は、ダイバーシティの基本的な考え方を説明したうえで、女性や高年齢者、障害者など多様な人材を活かすには、制度を充実させるだけでなく働き方を変革する必要があるとし、組織・個人の価値観の多様化や、政策の動きなどの現状を紹介した。後半はグループに分かれてディスカッションを行い、各社が抱える課題や女性社員の活躍推進に向けた取り組み状況などについて情報交換し、その内容を発表した。各グループから挙がった課題については幸田講師から、解決に向けた方策が具体的な事例を交えて解説された。

（「参加者NOTES」13頁掲載）

教育委員会

■定例委員会

５月27日（火）、20名が出席して富山経協・研修室Ａで開催した。

金岡委員長が開会挨拶をした後、2014年度の委員会活動について協議した。今年度の研究部会は、「新入・若手社員の育成～自ら考える社員を育てる～」をテーマに10社で立ち上げ、部会長に北陸電力㈱木下研修センター所長、副部会長にコーセル㈱日下人財開発課課長が就任したことを報告した。講座・セミナーについては、４～５月の実績を報告した。

この後、委員企業の「新入・若手社員の育成～自ら考える社員を育てる～」の実践事例や問題・課題について意見交換を行った。

■営業力基礎セミナー

４月22・23日（火・水）、33名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

公益財団法人日本生産性本部小林定夫主任経営コンサルタントが、営業担当者に求められる基本的な知識や技能について詳しく解説した。また、お客様と話をする際の留意点や会話を膨らませるコツについて演習を通して学んだほか、ケーススタディ「なぜ受注したのか、失注したのか」によるグループ討議や、新規開拓を想定したロールプレイング（役割演技）によって理解を深めた。さらに参加者が相互に評価し合い、フィードバックを行うことで営業力向上へのヒントが得られた。

（「参加者NOTES」15頁掲載）

■管理職マネジメント研修

昨年９月６日に富山県農業総合研修所において開講した第６期「管理職マネジメント研修」は、５月17日（土）に３回の合宿を含む12日間の日程を終えて閉講した。

最終回では２月から４か月間にわたり行ってきたグループ研究の成果を発表し、本研修運営委員長のコーセル㈱取締役会長　町野利道氏より講評を頂いた。また、管

理職として抱えている問題・課題について「部下育成」「モチベーション」「チームワーク」「管理者の自己啓発」「業務生産性（タイムマネジメント）」「会議の生産性」の６テーマでワークショップを実施して問題意識と解決の方向性を共有し、羽田野講師よりフィードバックが行われた。最後に修了証と記念品の授与を行った。

今後は同期会を開催して引き続き、交流を深める。第７期については2014年９月～2015年５月に全12日間の日程で開催する。

■ビジネス・マナー習得セミナー

５月23日（金）、30名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

ビジネス・マナー講師でキャリア・カウンセラーの長谷川綾子氏は、ビジネス現場で活用するための正しい接遇・応対の基本と応用について、何故このようなマナー

が決められているのか、どうすればスムーズにできるのかを、実際のケースをもとにしたロールプレイングを交えて分かりやすく解説した。マナーについての基本的な知識を得るだけでなく、コミュニケーションの重要性について理解を深め、日頃から疑問に感じている点を解決することができた。

■中堅社員活性化コース

６月４・５日（水・木）、45名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

講師の現代経営教育センター大塚則弘代表は、企業環境が激変する中、職場リーダーは先を見据える技術を培い、備えることが重要であるとし、職場リーダーとして①企業（職場）環境の変化とリーダーとしての備え方、②職場改善力と上司サポート力の磨き方、③後輩指導とリーダーシップのとり方、④長所の発見と自己改革のすすめ方ついて、ケーススタディなど演習やワークショップを通して指導した。また、自己分析を通じて、自分の長所を発見し、今後のキャリアアップを図ることが重要であり、この先、「自己投資を怠らず、主体的に生きる」必要があるとした。

参加者NOTES

教育委員会

「営業力基礎セミナー」を受講して

三耐工業株式会社
長岡営業所　諏佐　拓哉

講習会というのは講義を聞いて勉強するものと思っていたのですが、この講習会ではグループディスカッションが多く盛り込まれていました。１日目、一番初めにしたグループディスカッションは、今回の講習会で何を学びたいかを話し合い発表するというものでした。グループ毎に様々な意見が出たのですが、中でも時間の使い方を学びたいという意見に対する回答が私は印象的でした。集中できる朝早くに出社して事務処理を終わらせてしまう、それと１日の時間記録をつけて行動を振り返る、そのようにしていけば上手く時間を使っていけるのではないかという回答でした。上手く時間を使うことは私の目標の一つでもあったため、一文字残らずしっかりメモを取らせていただきました。

２日間の講義の最後に行われたグループディスカッションのテーマは、必要とされる営業マンはどんな人か？でした。講習の初めの方で「行動」=「意欲」×（知識＋能力）という公式を教えていただきました。行動はとても大事ですが、結果だけを求め、行動が先行してしまう営業マンは危険だと講師の小林先生はおっしゃっていました。まずは己の意欲や態度を大切にしていくこと、そうすれば自ずと実りある行動に繋がっていく、そんな風に行動していける営業マンが、必要とされるのかなと私なりに解釈させていただきました。

今回営業力の向上を目的にこの講習会に臨みました。しかし２日間を通して基礎の大切さを学ばせていただき、向上することも考えなくてはいけませんが、何より基本となる部分を大切にしていこうと思いました。今回のセミナーで学ばせていただいた多くの事を今後の活動に生かしていきたいです。自分を振り返る意味で何年後かにもう一度受けられたらいいなと思える講習会でした。

品質管理委員会

■定例委員会

５月14日（水）、町野委員長はじめ委員21名が出席して富山経協・研修室Ａにおいて開催した。

町野委員長挨拶の後、事務局より、2014年度各講座の現在までの状況について、「品質管理入門講座＜基礎編＞」、「開発現場で役立つ品質工学活用講座」、「実践しながら学ぶ統計講座」についての参加者数が好調に推移したこと、６月16日より、北陸品質工学会の協力を得て、「品質工学（タグチメソッド）勉強会」を開始することを報告した。町野委員長からは、

「品質工学（タグチメソッド）勉強会」について、今年度試験的に実施してみて、来年度以降どうするか協議する旨の指示を受けた。

委員企業見学会については、７月にコーセル㈱立山工場を訪問すること、２月の候補先として２社をリストアップした。

講座、行事の担当割については、担当委員の確認を行い、アイシン軽金属㈱竹村委員より、「開発現場で役立つ品質工学活用講座」についての報告を受けた。

県外企業見学会候補先は、今後事務局が案を示し、委員長に相談し決定することが確認された。

会議の後、「ユーザーの心に残るクレーム対応について」をテーマに、４班に分かれ、活発なディスカッションを行った。

■品質管理入門講座＜基礎編＞

４月17日（木）から５月15日（木）までの４日間の日程で、富山経協・研修室Ａを会場に32名が参加して

参加者ＮＯＴＥＳ

品質管理委員会

「品質管理入門講座＜基礎編＞」を受講して

細川機業株式会社
生産本部　製織部　製織一課
加藤　英樹

私は、品質管理についてはまったくの素人であり、初歩的なところからの出発でしたので、初日はいろいろと不安だったのですが、指導講師や他の受講生の皆さんに助けてもらい、何とか無事にこの講座を終えることができました。講義はＱＣとＴＱＭの歴史・概要から始まり、品質管理を初めて勉強する私にとって、とても分かりやすく受講しやすいものでした。演習でも実際にグラフを作成してみるなど、とても分かりやすい内容だったと思います。

今回の講座で特に印象深かったのは、グラフを作成する人によって、内容が別のものに見えてしまうということです。自分がそのグラフの内容を理解していても、他の人には理解しづらい。そういったグラフになってしまう事もあると考えました。それではデータをグラフにした意味がないので、誰でも理解しやすいグラフを作成する事が重要だと思いました。今回の講座ではまだ少し分からなかったところもありますが、より理解を深め、受講した事が無駄にならないよう、今後の業務に役立てていけるように努力していきたいと思います。

ウッドリンク株式会社
住宅資材事業部
製造・物流部　生産管理課
中村　剛史

「ＱＣ手法を使うことが目的になってはいけない」という先生の教えが印象に残っています。それは木材の仕事で例えるなら、道具をピカピカに磨くことが目的ではなく、ピカピカに磨いた道具できれいな仕事をすることが目的ということではないかと思います。私が普段行っている仕事も、目的を正しく理解して良い結果につなげたいと思うようになりました。

この講座では、なぜ品質管理が重要なのかということを実際の企業の事例をもとに詳しく教わりました。これを今後ＱＣ手法を使った改善を進めていく上での基本の考えとして持ち続けたいと思います。

この講座を修了して早速、私の現場でグループによる改善活動をスタートしました。まだ手さぐりの状態ですが、昨日より今日、今日より明日良くなるように情熱を持って取り組んでいきたいと思います。

また、このような機会を与えて下さったこと、大変感謝しています。ありがとうございました。

開講した。

この講座は、講義と演習により、より効果的に改善を進めるために不可欠である「品質管理」の考え方・手法について学び、「品質管理」の基本、問題の発見とその解決に役立つＱＣ７つ道具の使い方を習得することを目的としている。

企業をあげての改善活動が根付くために、人材の育成の重要性が一層要求されるようになってきており、昨年から取り入れた認定試験に全員が合格し、「品質管理初級」の資格を手にした。

（「参加者NOTES」16頁掲載）

■開発現場で役立つ品質工学活用講座

今年度より、従来の「品質工学実践講座」に代わり内容を刷新し、４月24日（木）・25日（金）、富山経協・研修室Ａにおいて開催した。

この講座は、矢野宏工学博士（応用計測研究所㈱代表取締役）を中心に、マネジメントとしての品質工学の考え方を理解し、技術開発の生産性向上、品質向上と原価低減の課題をバランスよく解決する方法を学ぶものである。初日は「マネジメントの品質工学～トップ企業も越えられる～」と題し、矢野博士の講演、品質工学を実践している㈱松浦機械製作所取締役　神戸久信氏、富山高等専門学校教授　水谷淳之介氏に出席頂き、パネルディスカッションを実施した。

２日目は、前年度、前々年度「品質工学実践講座」において優秀な研究成果を収められた２テーマの事例発表を行い、引き続き、矢野博士より「技術を変革する新しい考え方と品質工学」と題し、研修会を実施した。

参加者からは、質問も多数寄せられ、少しでも品質工学のノウハウを吸収すべく奮闘していた。

■実践しながら学ぶ統計的手法活用講座

５月30日（金）～12月５日（金）までの14日間の日程で、富山経協・研修室Ａを会場に30名が参加して開講中である。

本講座は、企業の体質改善を進めるために必要な役割を担うスタッフ・技術者を対象に、問題解決に必要な統計的品質管理（ＳＱＣ）の手法を学び、上司とキャッチボールのうえ、職場の問題をテーマに選定し、カウンセリングを受けながら品質管理手法を駆使して問題解決に取り組み、その内容を研究論文にまとめて提出することで、自己完結能力を高めることができる。

受講者は、他企業の受講生と仕事の内容、進め方などの意見交換を通してコミュニケーションを図りながら真剣に受講している。

環境委員会

■定例委員会

５月29日（木）、「定例委員会」と、それに先立ち「講演会・情報交換」を開催した。

「講演会・情報交換」は、三鍋委員長はじめ委員31名が出席して、富山商工会議所ビル99号室で開催した。

三鍋委員長挨拶の後、「地球温暖化・エネルギー問題に関する経団連の取組みや考え方」と題し、一般社団法人日本経済団体連合会環境本部主幹　中嶋康氏より講演を頂いた。

「定例委員会」は、三鍋委員長はじめ委員18名が出席して、富山経協・研修室Ａで開催した。

三鍋委員長挨拶の後、事務局より「2014年度事業計画」の説明と今年度の「情報交換会」の取組内容の審議を行った。その他情報提供として、岡田委員より、「コカ・コーラピークシフト自販機」についての紹介があった。

ＩＴ・インフラ委員会

■第1回定例委員会

５月22日（木）、齊藤委員長はじめ11名の委員が出席し、日本海ガス㈱岩瀬工場において開催した。

最初に浜広之工場長より施設の概要を説明頂き、ＬＰＧ（液化天然ガス）の受け入れ設備や都市ガス生産設備を見学した。質疑応答では、老朽化したガス管の交換や制御システムの二重化など安定供

給の維持に向けた取り組みや、災害に備えるための対応について活発な意見交換が行われ、生産活動や市民生活を支える社会インフラとしての責任を果たすために尽力されていることを再認識した。

続いて今年度の活動方針を確認したうえで、各社が抱える課題と対応策、問題意識を共有するためのワークシート案について確認、意見交換を行った。

次回は、８月５日（火）16時から、富山経協・研修室Ａで開催する。

会員の動き

（50音順）（敬称略）

■ 代表者の変更

三協立山株式会社
代表取締役社長　山下　清胤（前：藤木正和）

第一薬品工業株式会社
代表取締役社長　寺田　　敦
（前：代表取締役会長　石黒龍太郎）

東京海上日動火災株式会社 富山支店
支店長　　小西　孝久（前：吉川雅也）

となみの工業株式会社
代表取締役社長　萩野　利夫（前：河原嘉史）

株式会社 富山日立
代表取締役　　中川　英明（前：伊藤芳博）

株式会社 富山村田製作所
取締役事業所長　萱原　史也（前：森安勝幸）

株式会社 ナチ日本海ベアリング
代表取締役　　野尻　忠茂（前：大塚信義）

株式会社 日産サティオ富山
代表取締役社長　星野　真一（前：牛飼昇晃）

日本ソフテック株式会社
取締役総務部長　窪田　　繁（前：棚田一郎）

日の出屋製菓産業株式会社
代表取締役社長　川合　雅之（前：川合声一）

株式会社 氷見村田製作所
代表取締役社長　萱原　史也（前：森安勝幸）

前田薬品工業株式会社
代表取締役社長　前田　大介（前：前田圭一）

菱光商事株式会社
代表取締役社長　水牧　　博（前：紺谷信二）

おしらせ

富山県主催　＜厚労省 地域人づくり事業＞

海外赴任や海外取引の即戦力養成のための グローバル展開エキスパートコース

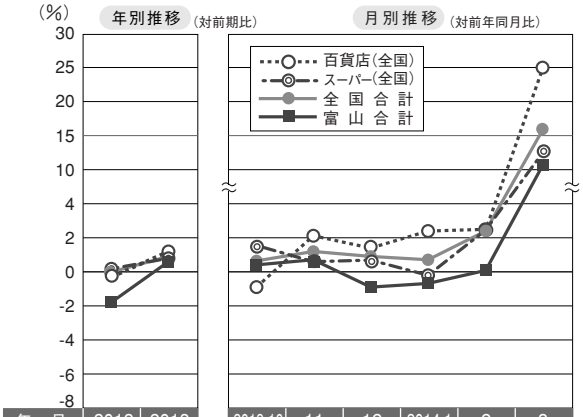
中　国・タ　イ・インドネシア・ベトナム

受講対象者	対象地域に出先機関（進出予定含む）がある、営業展開（展開予定を含む）をしている県内企業の従業員（役員含む）の方
定　　員	各コース　１０名
期　　間	各コース　６か月　月２回（１日６時間）　合計　12日間（72時間）（９月開講予定）
受 講 料	無料（テキスト代・食事代、交通費等は実費負担）
講　　師	（一財）海外職業訓練協会（ＯＶＴＡ）専属講師

注：国の緊急雇用創出事業の一環のため、“処遇改善計画書”の提出が必要となっています。
詳細は当協会事務局までお問い合わせください。

景況指標

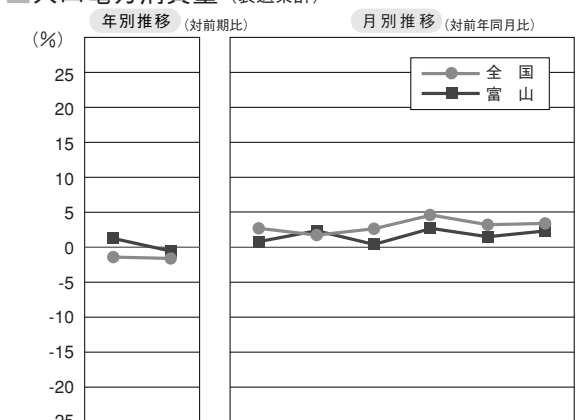
■百貨店・主要スーパーの売上高



年月		2012	2013	2013.10	11	12	2014.1	2	3
全国	百貨店	▲0.3	1.2	▲0.9	2.1	1.4	2.4	2.5	25.0
	スーパー	0.2	0.8	1.6	0.8	0.7	▲0.2	2.3	12.6
	合計	0.0	0.9	0.8	1.2	0.9	0.7	2.4	17.0
富山合計		▲1.8	0.6	0.4	0.7	▲0.9	▲0.7	0.1	11.5

(出所：中部経済産業局)

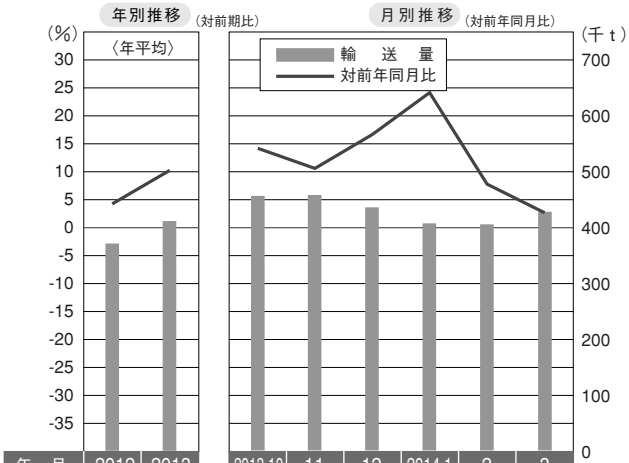
■大口電力消費量（製造業計）



年月	2012	2013	2013.10	11	12	2014.1	2	3
全国(%)	▲1.4	▲1.7	2.7	1.9	2.8	4.6	3.1	3.3
富山(%)	1.5	▲0.4	0.7	2.3	0.2	2.8	1.5	2.4

(出所：電気事業連合会／北陸電力)

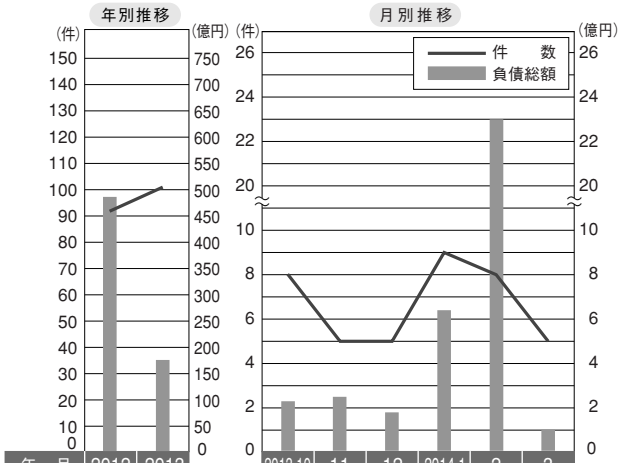
■一般貨物自動車輸送量（富山県内）



年月	2012	2013	2013.10	11	12	2014.1	2	3
輸送量(千t)	372.0	410.2	457.1	458.6	436.0	405.8	405.6	429.6
増減率(%)	4.4	10.2	14.2	10.6	16.7	24.2	7.9	2.7

(出所：北陸信越運輸局富山運輸支局)

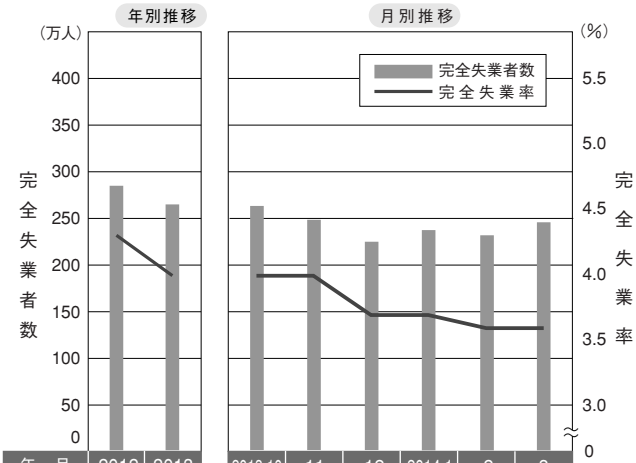
■企業倒産（富山県内）（件数と負債総額）



年月	2012	2013	2013.10	11	12	2014.1	2	3
件数(件)	92	101	8	5	5	9	8	5
負債総額(億円)	486	176	2.3	2.5	1.8	6.4	23.0	1.0

(出所：東京商工リサーチ)

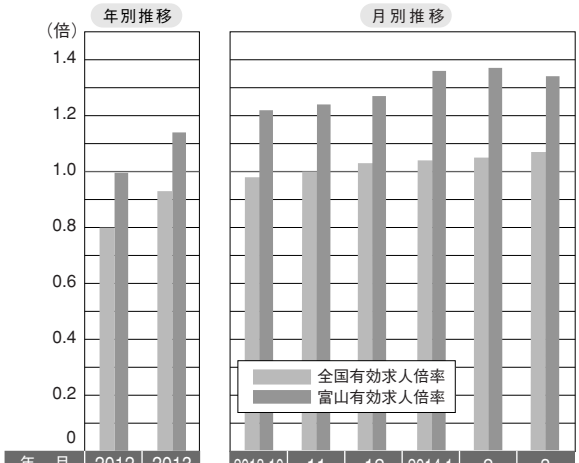
■完全失業者数及び完全失業率（季節調整値）



年月	2012	2013	2013.10	11	12	2014.1	2	3
完全失業者数(万人)	285	265	263	249	225	238	232	p246
完全失業率(%)	4.3	4.0	4.0	4.0	3.7	3.7	3.6	p3.6

(p=速報値)　(出所：総務省統計局)

■有効求人倍率（パートを含む季節調整値）



年月	2012	2013	2013.10	11	12	2014.1	2	3
全国(倍)	0.80	0.93	0.98	1.00	1.03	1.04	1.05	p1.07
富山(倍)	0.98	1.14	1.22	1.24	1.27	1.36	1.37	p1.34

(p=速報値)　(出所：厚生労働省／富山労働局職業安定部)

おしらせ

◆ 西部地区会員懇談会 ◆

7月4日(金)

場所：「クルン高岡」地下街　交流情報発信ステージ
高岡市下関町6－1　高岡ステーションビル地下1階

16:30～18:00　座談会『新幹線開通を機に高岡地区の活性化について』（仮）

高橋　正樹　氏（高岡市長）
出口　秀己　氏（ＪＲ東日本 常務取締役東京支社長）
＜6月25日付けで㈱ジェイアール東日本都市開発 代表取締役社長就任予定＞
齊藤　栄吉　氏（富山銀行 代表取締役頭取）
〔コーディネーター〕
稲垣　晴彦　氏（当協会 会長：北陸ｺｶ･ｺｰﾗﾎﾞﾄﾘﾝｸﾞ㈱　代表取締役社長）

18:10～19:30　懇親会
場所：「ホテルニューオータニ高岡」４階 鳳凰
高岡市新横町１番地　電話(0766)26-1111

事　業　予　定

2014年 6月16日～8月26日

詳しくはホームページ（http://www.toyama-keikyo.jp/）
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所	備考
会議	6月18日（水）	16:30～18:30	労働法関連法制研究部会	人事・労務政策	富山経協・研修室Ａ	
	7月 4日（金）	16:30～19:30	西部地区会員懇談会		クルン高岡 ホテルニューオータニ高岡	上記「おしらせ」参照
	7月17日（木）	14:00～16:00	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	コーセル㈱立山工場	
	7月25日（金）	16:30～17:30	教育委員会「定例委員会」	教　育	富山経協・研修室Ａ	
	8月 5日（火）	16:00～17:30	ＩＴ・インフラ委員会「定例委員会」	ＩＴ・ｲﾝﾌﾗ	富山経協・研修室Ａ	
	8月 8日（金）	17:00～18:00	経営企画委員会「定例委員会」	経営企画	富山経協・研修室Ｂ	
	8月20日（水）	16:30～17:30	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	富山電気ビル	
	8月26日（火）	14:00～17:30	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	富山経協・研修室Ａ	
	8月28日（木）	14:00～16:00	富山県生活環境文化部との情報交換	環　境	富山商工会議所ビル	
	8月28日（木）	16:10～17:10	環境エネルギー講演会	環　境	富山経協・研修室Ａ	
	8月28日（木）	17:10～17:40	環境委員会「定例委員会」	環　境	富山経協・研修室Ａ	
講座・セミナー	6月18日（水）	13:30～16:30	第1回労働法実務講座	人事・労務政策	富山商工会議所ビル	
	6月20日（金） 7月4日・18日（金） 8月8日・22日（金）	9:00～17:00	実践しながら学ぶ 統計的手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室Ａ	
	6月24日（火）	9:30～16:30	仕事の基本「報連相」セミナー	教　育	富山商工会議所ビル	
	7月11日（金）	13:30～16:30	第2回人事・労務管理セミナー	人事・労務政策	富山経協・研修室Ａ	
	7月16日(水)・17日(木)	9:30～16:45	監督者（係長・主任・班長）基礎コース	教　育	富山商工会議所ビル	
	7月24日(木)～26日(土)	9:00～15:00	方針管理実践講座	品質管理	山田交流促進センター	
	8月 5日（火）	9:00～17:00	なぜなぜ分析活用セミナー	品質管理	富山商工会議所ビル	
	8月21日（木）	9:30～16:30	女性社員活性化セミナー	教　育	富山商工会議所ビル	
	8月25日(月)・26日(火)	9:00～16:30	ものづくりと現場改善実践セミナー	品質管理	トナミ運輸年金会館	

「富山経協」vol.812
2014年（平成26年）6月号
2014年6月15日発行（隔月発行）

一般社団法人 富山県経営者協会
〒930-0083　富山市総曲輪2丁目1番3号（富山商工会議所ビル 別館5階）
TEL（076）421-9588　FAX（076）421-9952
ホームページ　http://www.toyama-keikyo.jp/
Ｅメール　info@toyama-keikyo.jp